

第8章 ロケ誘致による 集客向の向上

2012年11月20日(火)

チーム辻ゼミ(国吉潤・上地正信)

自己紹介(委員長)

- ◆ 上地正信 (Masanobu Uechi)
- ◆ 生年月日:平成2年5月27日(22才)
- ◆ 仕事:ホテル勤務
- ◆ 好きな食べ物:味クーターなヤツ(塩)
- ◆ 嫌いな食べ物:紅いもののパサパサ感
- ◆ 趣味:サッカー(読谷・嘉手納・北谷・沖縄市)
- ◆ 好きな言葉:人の夢は!!!おわらねェ!!!!(ドンツ!)

自己紹介(副委員長)

- ◆ 国吉潤 (Jun Kuniyoshi)
- ◆ 生年月日: 昭和59年4月4日 (28才)
- ◆ 仕事: 観光施設で勤務
- ◆ 好きな食べ物: シチュー
- ◆ 嫌いな食べ物: レバー
- ◆ 趣味: サーフィン(沖縄・バリ島・台湾・宮崎)
- ◆ 好きな言葉: 振り向くな! 過去に夢はないんだぞ

委員長と副委員長の共通点

- ◆ ①友達が少ない(今回の発表結果)
- ◆ ②産経4年 辻ゼミメンバー
- ◆ ③読谷村出身(人口4万人の日本で2番目)
- ◆ ④観光業に携わる
- ◆ ⑤各職場が車で5分
- ◆ ⑥ Facebookをやっている(リクエストしてね)
- ◆ ⑦彼女をまだ作っていない

「ロケ誘致」の経済効果

◆ 直接的効果

- ・・・撮影隊の宿泊費や交通費等経費

◆ 間接的効果

- ・・・観光客がロケ地を訪れて投じた効果

◆ パブリシティ(宣伝)効果

- ・・・観光客にもその地域の人にも



大きな経済効果・国際競争力をもたらす！

誘致への継続的取り組みの必要性

- ◆ 北海道富良野市「北の国から」
- ◆ ドラマは81年10月から翌年3月まで24回、その後02年までの20年の間にスペシャル版を8本放送し高視聴率を記録⇒有名観光地に
- ◆ しかし、観光客数ピークの02年以降からは減少傾向

単発的なロケ誘致では、その需要喚起が一過性のブームに終わってしまう！

フィルムコミッション

- ◆ 自治体や商工会議所などが設立
- ◆ 公共施設等の撮影許可申請、エキストラの手配、撮影スタッフの宿泊手配等の代行を行う非営利公的機関
- ◆ 制作側の手間が省けるのでロケ誘致がしやすくなる
- ◆ 地元住民が直接参加して地域文化の育成につながる

- ◆ 神戸フィルムオフィス(兵庫県神戸市)
- ◆ 日本で初めて地下鉄線路内での撮影を実現
- ◆ 公道を閉鎖しての爆破シーンの撮影なども粘り強く交渉し実現

⇒神戸は最も撮影許可が取りやすい都市

- ◆ 韓国のドラマ「ガラスの華」が神戸港のクルーズ船やホテルなどを舞台にロケ

⇒韓国での神戸の認知度が上昇、ロケ地ツアーも

- ◆ 「こうべICT推進計画」

⇒撮影から編集、CGなどの一貫した映像制作を目指す

現状は・・・

◆ 設立条件が緩いので乱立気味

①非営利公的機関である

②ワンストップ・サービスの提供

③作品内容は不問

⇒サービスの均一化が今後の課題

◆ 非営利公的機関

地域サイドの負担は増え続けるが、望みどおりの情報発信ができないケースも・・・



シネマーケティング事業

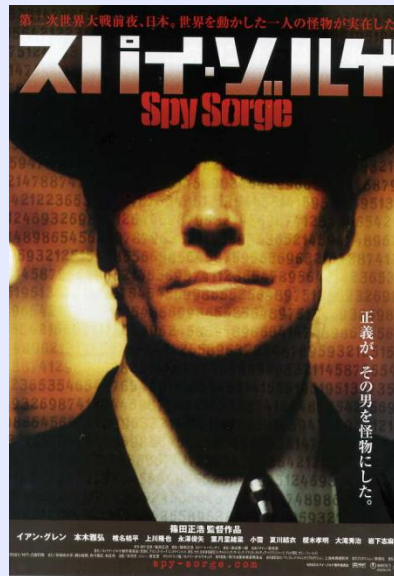
- ◆ 地方自治体向けに映画製作による地域プロモーションを提案する事業
- ◆ シナリオ作成段階から地方自治体が映画製作に参画する
- ◆ 制作費の一部を負担するが的確な地域プロモーションが行える
- ◆ 和歌山県田辺市「幸福のスイッチ」



映画のまちづくり

◆ 長野県上田市

「第10回うえだ城下町映画祭」(06年11月)において、同市でロケされた映画を上映、ロケ地ツアー、シンポジウム等イベント開催



⇒ロケ地としての素材の豊富さや実績をアピール

映画のまちづくり

◆ 広島県尾道市

「おのみち映画資料館」、「29ミュゼ」等資料館



「男たちの大和/YAMATO」での
セットを期間限定で公開、
10ヶ月で約100万人
⇒入れ込み観光客数増



ロケ誘致のメリット

- ◆ 全国多くの地域が誘致の可能性を秘めている
 - ◆ 大きな経済効果
 - ◆ 自治体が巨額の資金負担を要しない
 - ◆ 「映画(テレビ)」というヴィジュアル・メディアによる多大な影響力
-
- ◆ 地域活性化の原動力
- ⇒ 目的ではなく手段としてのロケ誘致

佐賀県武雄市

「佐賀のがばいばあちゃん」

- ◆ 2007年1月4日に新春ドラマスペシャルとして放送

(ロケ誘致は2006年6月から)

- ◆ 誘致に伴う市役所内部組織の改組
「佐賀のがばいばあちゃん課」

- ◆ 地域一体での活動支援

新「武雄市市民」としての共有体験

- ◆ 放映後の関連活動の継続

「がばい課」が「観光課」と合併





- ◆ 1993年、NHK大河ドラマ「琉球の風」ロケ地に使用され、多くの人を訪れる
- ◆ 翌年から客足が減少、一時は取り壊しの危機に
- ◆ 2004年度、14・5世紀の琉球王朝の歴史的町並み(セット)はそのままに、「体験滞在交流型観光施設」として再生！
- ◆ 現在では宿泊施設・料飲施設・銭湯もOPEN、さらなる観光客誘致に力を入れる！

参考文献

- ◆ 中村彰憲・前野大喜(2008)

「地域映像コミュニティ政策と内発的発展における
外来要因の役割に関する一考察 —佐賀県武雄市
テレビドラマ誘致事業の事例を中心に—」

- 『アート・リサーチ』

- ◆ 永橋爲介・神谷雅子・宮西恵津子(2011)

「2000年代におけるフィルム・コミッション論の検
証」

- 『立命館産業社会論集』

- ◆ 体験王国むら咲むら パンフレット